
優先座席のあり方と

日本人のマナー

第1章 プロジェクトの概要

1. プロジェクト名

優先座席のあり方と日本人のマナー

2. 代表者および構成員

・代表者

久住呂優衣 家庭領域専攻 4回生

・構成員

井上温子 家庭領域専攻 4回生

世古千春 家庭領域専攻 4回生

前村純加 家庭領域専攻 4回生

改田仁実 家政教育専修 1回生

山口恵未 特別支援教育特別専攻 1回生

3. 助言教員

杉井潤子先生（家庭科）

4. プロジェクトの目的

優先座席付近には、その席を必要とする方にゆずるように呼びかけるとともに、お年寄りやからだの不自由な方、妊娠中の方などを示すステッカーが貼られている。私達のなかで無意識的に、健常者は優先座席に座ってはいけないという考えがある。

『最近、わざと「優先席」に座っている理由』というコラムを見つけた。このコラムの執筆者は、本当に優先座席が必要な人に席をゆずるため、あえて優先座席に座り席を確保しているのだという。

このように、各メディアにおいても優先座席に関する話題が多く取り上げられ人々の関心は高まっている。

急速に変化する社会の中で、様々な人が助け合って生きていかなければならない。しか

し、マナーやモラルの低下によって、優先座席本来の目的が果たせていないように思う。

4年後にオリンピックを控えた今だからこそ、優先座席を通して思いやりといった「おもてなし」の精神を見直す必要がある。

本研究では、主に2つの調査を行う。一つ目は、京都の3つの鉄道会社における優先座席の実態調査である。二つ目は、横浜市営地下鉄の優先座席の実態調査と、取り組みへの聞き取り調査である。

優先座席の調査を通して、日本人のマナーやモラルについて考察することを目的とする。

第2章 内容や実施経過など

【調査1】マークシートによる優先座席実態調査

前から3両目の車両に乗り、実際に優先座席に座って自作のマークシートにより調査を行った。（別紙参照）

調査対象を「京阪/丹波橋駅」「京阪/藤森駅」「JR/東福寺駅」「近鉄/桃山御陵前駅」とした。京都教育大学の学生や、附属学校の児童生徒の利用が多いという理由から、以上4つの駅を選び、調査結果が今後児童生徒への教育に生かされるのではないかと考えた。

優先座席各席には進行方向を基準として番号をつけ調査を行った。各席における番号を図1-2に示す。

【横並び席タイプ】

【ボックス席タイプ】

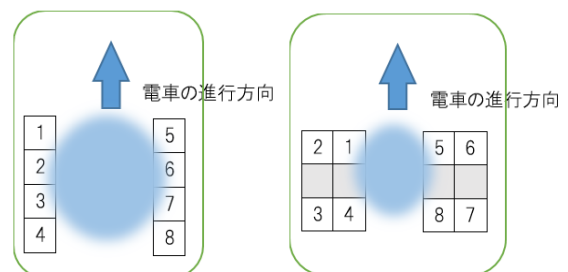


図1 優先座席各席における番号

なお、京阪電車、近鉄電車は横並び席タイプ

プであり、JRは横並び席タイプとボックス席タイプのどちらも取り入れている。

1. 京都

調査概要

場所：京阪/丹波橋駅

京阪/藤森駅

JR/東福寺駅

近鉄/桃山御陵前駅

日時：2016年11月～12月

調査結果

(1) 利用者の内訳

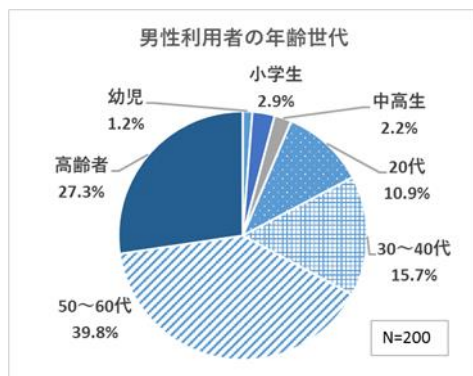
男性 200 人、女性 253 人、観察者 53 人

(2) 利用率（利用者数/座席数）

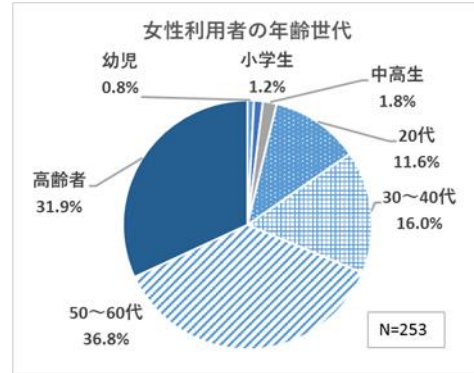
65.1%（観察者を含まない）

(3) 男女別における年齢世代

男性…幼児は 1.2%、小学生は 2.9%、中高生は 2.2%、20代は 10.9%、30～40代は 15.7%、50～60代は 39.8%、70代以上の高齢者は 27.3%となった。



女性…幼児は 0.8%、小学生は 1.2%、中高生は 1.8%、20代は 11.6%、30～40代は 16.0%、50～60代は 36.8%、70代以上の高齢者は 31.9%となった。



横浜市営地下鉄において同様の調査を行った。以下、横浜でのマークシート調査の結果をまとめていくこととする。

2. 横浜

調査概要

場所：横浜駅

日時：2016年12月4日～5日

調査結果

利用者の内訳

→男性 75 人、女性 79 人、観察者 12 人

利用率（利用者数/座席数）

→80.2%（観察者を含まない）

3. 実態調査を終えて

横浜の優先座席利用率は 80.2%であり、京都の 65.1%を大きく超えていた。また、優先座席に荷物が置かれていることはなかった。以上から、横浜市営地下鉄の取り組みが、優先座席の利用率の高さや車内におけるマナー向上に貢献していることが伺える。

今回のマークシートでは、優先座席に番号を付けていたが、進行方向に対する番号であったため鉄道会社によって番号の位置付けが異なってしまった。ドア位置を基準に番号を統一することで、どのような人がどの席を一番利用しているのが明らかになるだろう。

【調査2】横浜市取り組みと人々の認識

1. 横浜市営地下鉄でのフィールド調査

(1) 方法

日時：12月4日（日）～5日（月）

実際に横浜市営地下鉄に乗車し、優先席に関する取り組みがどのようになっているのかについて観察を行った。

なお、以下に示す“ゆずりあいシート”という言葉は優先座席を指す。

(2) 内容

大きく4つの観点についてまとめ、報告することとする。

ホーム

ゆずりあいシート乗車位置を示すステッカーが貼られていた。(写真1) 左から順に「お年寄りの方」「体の不自由な方」「内部障がいのある方」「妊娠されている方」「乳幼児をお連れの方」を指す。目に入りやすいところに貼られており、乗車前から人々にゆずりあいの意識を持たせるための工夫が見られた。



写真1 ホームにて

ゆずりあいシート

網棚上部に乗車マナーポスターが貼られていた。「やさしい気持ちでゆずりあい」「みんなでたすけあおうね」などとゆずりあいに対する意識を高めるような作品が数ある中で、写真2は少し他のものと違って感じられた。写真2には「席をゆずられたらすわってあげてね!」と書かれており、ゆずる

側ではなく、ゆずられる側への呼びかけとなっている。この作品の背景には、席を譲ろうと思っても、断られたら恥ずかしいのでなかなか行動に移せない人への配慮があるように見えた。



写真2 乗車マナーポスター

普通席

普通席の窓には、図2に示すステッカーが貼られていた。制度としての全席優先席は廃止されたが、ゆずりあいシート以外の席でもゆずりあいを促す取り組みは、今もなお行われているようである。



図2 普通席の窓に

ゆずりあいシートと普通席の違い

席の柄、色については違いが見られなかった。ゆずりあいシートと普通席の区別として見られたのは床(写真3)とつり革(写真4)であった。ゆずりあいシートにおいて、床はピンクのストライプ柄に、つり革はオレンジ色(携帯電話混雑時 OFF のマーク付き)になっていた。



写真 3 床の違い



写真 4 つり革の違い

2. 横浜市在住の方へのインタビュー調査

(1) 方法

日時：12月4日（日） 16：00～17：30

12月5日（月） 11：30～13：00

17：00～17：30

横浜市営地下鉄の関内駅、新横浜駅付近の公園にて、横浜市在住の方へインタビュー調査を行った。中学生から80代の男女、40組、計53人にインタビューすることができた。インタビュー内容は、優先座席についての認識、横浜市営地下鉄が行っていた「全席優先座席」について、優先座席のあり方についてなど、3分程度お話を伺った。

(2) インタビュー内容

優先座席に座るかという質問に対して、座ると答えたのは5人（40～80代）、理由としては、「高齢者だから」（60代女性）、「足が悪

いから」（70代男性）であった。空いていたら座ると答えたのは7人（20～80代）、理由としては、「サラリーマンだって（疲れている）座りたい」（30代男性）、など、空いたら座っても良いと思う人も少なくない。子どもといるときは座ると答えたのは4人（20～30代）、座らないと答えたのは24人（20～70代）、理由としては、「優先されるべき人が座るべきだから」（20代女性）という認識は、若者から高齢者まですべての人がもっていた。また、一方で、「譲らないといけな」と思いながら座るのが嫌」（40代男性）、「コミュニケーションを取りたくない」（30代男性）、「譲るとき、声をかけることができないから」（女子高校生）という理由で優先座席に座らない人々もいた。

横浜市営地下鉄で、全席優先座席を導入していたことを知っているかという質問に対して、知っていると答えたのは20人、知らないと答えたのは29人であった。全席優先座席の導入は平成24年7月までであり、それ以降に市営地下鉄に乗り始めた方も多く、知らないと答えた人が半数をこえた。そこで、全席優先座席についてどう思うか聞いてみると、賛成、反対どちらの意見もあり、反対の意見が多く見られた。反対の意見として、「普通の席があるから、優先座席がある」（20代女性）、「全席優先座席だと、みんなどう座ったらいいのかわからなくなる」（70代男性）、「逆に優先席の意味が薄まると思う」（30代女性・子連れ）など、全席優先座席では譲るという意識が持ちにくく、あまり意味がないと考えている人や、「座りづらい」（女子高生）、「全席優先座席だったら、ずっと立ってる。ちょっと座れないじゃん」（女子中学生）など、優先される人ではないので座れる席が無くなってしまおうという意見もあった。賛成の意見として、「優先席が少ないから。この制度で意識が変わってほしい」（30代女性）、「全席優先座席はすごく良いことだと思う。体が悪い人や体調が悪い人が座りやすいし、遠慮しなくて

もいい」(20代女性)などがあった。

次に、優先座席についてどう思うか聞いたところ、マナーについて「若者は居眠りをしてしまう。譲って欲しいけれども、譲ってもらえない」(60代男性)、「今6割がたは守られているけど、4割はいい加減。若いのに座っていて無関心、代わらない人が結構いる」(70代男性)、「昔はよく譲ってくれた。けれども、だんだん譲られなくなったなあ、と感じる」(80代女性)といった意見や、妊婦であっても変わってもらえない、携帯を触っている人が多いということを問題視している意見もあった。反対に、「横浜は、普通席でも譲ってくれる。子どもを抱っこしているとはぼ100%」(30代男性)という、横浜のマナーの意識の高さを挙げる人もいた。また、「何歳から譲るのがあいまい」(30代男性)「優先席に座る人の基準があいまい。幅の認識が人によって違うのでは」(30代女性)など、優先される人の基準のあいまいさを挙げる声もあった。

2. 神奈川県横浜市交通局高速鉄道本部営業課への聞き取り調査

神奈川県横浜市は平成15年12月から、すべての人が席を譲り合える車内環境をつくることを目的に、「全席優先席」を導入していた。幾つかの鉄道会社の中でも、平成24年7月と最近まで「全席優先席」を導入していた上、新聞、テレビ、ラジオなどメディアでも大きく取り上げられていたことから「全席優先席」について、横浜市市役所の関さんにお話を伺った。

(1) 方法

日時：平成28年12月21日(水)

当初は市役所の方に直接お話を伺う予定であったが、事前に電話連絡をしたところ交通局が繁忙期であったため、今回はメールでの聞き取りとなった。

(2) 聞き取り内容

「なぜ『全席優先席』制度を廃止することになったのか、その経緯について」

—「全席優先席」制度を導入後も、席を譲ってもらえないなどのお客様の声や、「全席普通席と変わらない」など、見直しを求めのご意見などが寄せられていました。一方、お客様アンケートによると、この制度がお客様に浸透し、制度の継続を望む回答も過半数ありました。そのため、全席優先席の理念はそのままに、お年寄りや体の不自由な方、妊娠中の方など、真に座席を必要とするお客様が利用しやすくなるよう、特に席の譲り合いをお願いする「ゆずりあいシート」を設置することとしました。

「『全席優先席』制度廃止後から現在までの優先席の様子、動きについて」

—譲られないというご意見は相変わらずあるものの、「ゆずりあいシート」の制度そのものに関する反対意見は少ないようです。

「市営地下鉄や優先席における、横浜ならではの地域性とそれに対する配慮について」

—横浜市営地下鉄は通勤路線のため、観光客の方はあまり多くありません。このため、普段から市営地下鉄を利用されている方へのマナー啓発が重要になります。日頃から、マナーに対する意識を持っていただくために、小学生を対象に「市営地下鉄・市営バスの乗車マナー」及び「公共交通の利用促進」をテーマとしたマナーポスターコンクールを実施したり、公共交通を利用することの多い若い世代(高校生)が自らマナー啓発を行うことで、マナーに対する意識を高めてもらう活動を行っています。

2. 横浜市での調査を終えて

フィールド調査からは、ゆずりあいに対する意識を高めるための取り組みが多くなされていることが分かった。

内部障がいや体調不良など目に見えない理由で優先座席を必要としている方にとって、

普通席と同じ色の優先座席は座りにくさを緩和させる効果があるように感じた。

インタビュー調査からは、「子どもにも立つように教育していた。小さいころから座らせないようにしていたら、大きくなって立てる。立てる子は立つように。優先される人が座るべき」(30代女性)という考えを持つ人もおり、インタビューを通して、横浜の人々の優先座席や交通機関での意識の高さを感じた。個々に優先座席について考えをしっかりと持っており、突然のインタビューでも、多くのことを語ってくださった。また、今回のフィールドワークやインタビューから、この意識の高さは、横浜市が、全席優先座席を導入したり、乗車マナーのついてのポスターなど、積極的に取り組みを行っているからこそだと実感した。

第3章 結論

学校との連携を強めることで、子どものころからマナーに対する意識を高められるような活動を行う機会を増やすことが大切だ。

また、座席の色が違うことで、普通席か優先座席かがパッと見てわかる。この違いの明らかさによって普通席に対する「座りやすさ」と、優先座席に対する「座りにくさ」がうまれる。例えば、横浜市営地下鉄のように、つり革や床の色を変えるなどさりげなく区別する。こうした工夫により、普通席および優先座席の認識の格差を縮めることで、実質的な全席優先座席を実現することができるだろう。

私たちが車内で携帯電話を触っている事が多かったが、本調査を通して、周りを見ることの大切さを痛感した。インタビュー調査のなかで、40代の男性が述べたように「目の前の人の状況を見て、譲るという感覚」の養うことが、スマホ世代の私たちには求められるのだろう。

<参考・引用文献>

P.K. サンジュン 2016年4月17日

「【コラム】最近、わざと「優先席」に座っている理由」

<http://rocketnews24.com/2016/04/17/737937/> (最終閲覧日 2017年1月16日)

<調査票：一部抜粋>

1. 観察者番号	0 1 2 3 4 5 6 7
2. 鉄道会社/駅名	1 京阪/丹波橋 2 京阪/藤森 3 JR/東福寺 4 近鉄/桃山御陵前 5 その他
3. 車両タイプ	1 特急 2 通勤快速 3 準急 4 普通 5 その他
4. 時間帯	1 6~9時 2 9~12時 3 12~15時 4 15~18時 5 18~21時 6 21時~
5. 曜日	1 月 2 火 3 水 4 木 5 金 6 土 7 日・祝
6. 優先座席数	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
7. 優先座席に座っている人の数	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
8. 優先座席の前に立っている人の数	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
9-1.	1 男 2 女 3 荷物 4 観察者 1 幼児 2 小学生 3 中高生 4 20代 5 30~40代 6 50~60代 7 高齢者 1 障がい 2 子連れ 3 妊婦 4 大荷物 5 お年寄り 6 外国人 7 友だちと 8 その他 1 携帯 2 音楽 3 本 4 喋り 5 寝る 6 知らんぷり 7 ぼーっと
9-2.	1 男 2 女 3 荷物 4 観察者 1 幼児 2 小学生 3 中高生 4 20代 5 30~40代 6 50~60代 7 高齢者 1 障がい 2 子連れ 3 妊婦 4 大荷物 5 お年寄り 6 外国人 7 友だちと 8 その他 1 携帯 2 音楽 3 本 4 喋り 5 寝る 6 知らんぷり 7 ぼーっと
10. 実際に譲ったか	1 無し 2 有り/座った 3 有り/断られた 1 男 2 女 1 幼児 2 小学生 3 中高生 4 20代 5 30~40代 6 50~60代 7 高齢者 1 高齢 2 障がい 3 子連れ 4 妊婦 5 大荷物 6 しんどそう 7 座りたそう
11. 周囲からのプレッシャー	1 とても感じた 2 まあ感じた 3 あまり感じなかった 4 感じなかった